

令和元年度山梨県南都留地域教育フォーラム提案書

第2分科会

山梨県都留市立東桂中学校

校長 渡邊 昭 男

『学習アシスタント』

～地域と連携した教育実践の取り組み～

◎はじめに（東桂中の現状）

（1）学校教育目標 「広い視野と豊かな心を持った 健康でたくましい生徒の育成」

- 健康でたくましい生徒
- 人の痛みが分かり、思いやりのある生徒
- 進んで学び、感動のできる生徒
- 規律を守り、責任を果たす生徒
- 厳しさに耐え、自ら努力する生徒

（2）育てたい生徒像 「あたりまえを大切にし、気づき、考え、実行する生徒」

- 1) 世界に通じ、社会を生き抜く力の育成
- 2) 確かな学力と自立する力の育成
- 3) 豊かな心と自己実現を図る力の育成
- 4) 健康で豊かな生活を営むことができる「やまなしスポーツ」の創出
- 5) 一人一人のニーズに応じた特別支援教育の充実に向けての取組
- 6) 子どもたちが安全に安心して学ぶことができる教育環境づくり

（3）課題

日常の学校生活は非常に落ち着いている。学習態度もよく、部活動にも積極的に参加して大きな成果も残している。昼休みだけ活動している有志合唱は、山梨県合唱コンクールにおいて優勝し、関東大会に出場した。東桂中の最大の課題は不登校の問題である。年間15日以上の子をいじめれば、全体の1割以上にもなる。学校でのトラブルが原因というよりは、家庭環境に起因している場合が多く、担任の家庭訪問の回数は非常に多い。また、生徒数の減少と学校外のクラブに参加している生徒が多いため、運動部活動の運営も危機的状況にあり、合同チームや他の部からの協力でチームを組んで大会に出場している。部活動の精選も大きな課題となっている。

（4）東桂地区について

本校は全校194名である。PTA役員は会長、副会長、地区の代表、各学年代表等を含め30名いる。年数回の理事会はこの30名が集まり、各専門部の活動をしている。東桂地区健全育成協議会があり、協議会が独自で小中学校の子ども達に家庭の標語を募集し、表彰し、優秀作品をのぼりにして啓発活動をしている。また、各地区のお祭りや行事を共有して、子ども達の健全育成に取り組んでいる。秋には東桂地区文化祭が行われ、本校生徒も合唱やソーラン隊が発表して、文化祭の目玉になっている。地域からの要請で環境教育講演会や清掃活動にも参加している。

紹介したように、東桂地区の地域住民は、子どものための行事をはじめ、地域愛にあふれる活動を大切にしている地区であり、子ども達が安心して学校生活を送れる地区である。

## ◎教育実践の取り組み（学習アシスタント）

### （１）「２０分学習」について

#### １）ねらい

- ①反復学習を通して、既習の基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。
- ②学習習慣の形成をめざすと共に、SAT（都留文大生による学習支援）と併せて、教え合い学習の場面として位置づけできるようにする。
- ③自らの課題をもって学習に取り組もうとする姿勢を育てる。

#### ２）実施回数 月に３回から４回

#### ３）取り組み教科 学年ごとに取り組み教科を決めて、テキストを購入

#### ４）取り組みにあたって

##### ① オリエンテーション

- 目的を確認。
- 時間の厳守。
- 「はじめ」「おわり」の時間を守れるように工夫する。
- ポストテストについて。

##### ② 手順

- ・テキストの配布。
  - ・今月の取り組み範囲を確認。
  - ・１ページずつ地域ボランティアの方々に「丸付け」をしてもらう。
  - ・定期的に、知識の定着を確認するためにポストテストを実施。
- \*ポストテスト前は、やり終わってない問題も含めて、家庭学習ができるように配慮。

	担任教師	SAT	地域ボランティア
①テキストの準備	準備を促し着席させる	担当クラスに待機	担当クラスに待機
②学習	机間巡視	学習支援	
③答えの確認			丸付け

## 【資料】

### 地域ボランティアの皆様

**1学期もまとめの月となりました。  
学習面でもよいまとめができるよう、20分学習もがんばります。**

**丸付けをよろしくお願いいたします**

**東桂中学校一同**

令和元年度 20分学習取り組み予定 <7月>

	関係行事	開始時間	1年	2年	3年
2日(火)	平常授業 通常清掃	3:35~	国・社・数・英・理 ワーク	漢字ワーク	国・社・数・英・理 ワーク
4日(木)	平常授業 通常清掃	3:35~	国・社・数・英・理 ワーク	漢字ワーク	国・社・数・英・理 ワーク
17日(水)	平常授業 通常清掃	2:35~	国・社・数・英・理 ワーク	漢字ワーク	国・社・数・英・理 ワーク

※1~2ヶ月に1回、ポストテストを予定しています。

## ◎「20分間学習」のはじまり

今から10年ほど前の東桂中は、生徒に落ち着きがなく学級経営が困難なときがあった。職員は生徒たちにどう対応したらいいか苦慮していた。その頃生まれた指導方針が「あたりまえのことを大切に」である。現在では学校や生徒会の方針、生徒間でも合い言葉のように使われていることが素晴らしい。現在でも各教室に額縁に入れて掲示してある。同時に「地域と共につくる学校」といった考え方が浸透し始めていたころである。当時の校長先生が「地域の方々と生徒たちと何かできないか」と、考えたのがきっかけだったと聞いている。

## ◎「20分間学習」をサポートしていただいている方々



20分間学習がはじまって10年以上たっているのですが、当時と現在の役職は違うかもしれないが、主任児童委員、学校評議員、老人クラブ会長、スクールガード等の方々にお願いをして、今現在でも同じメンバーで、学校をサポートしていただいている。全員で9名の方々にお願いをしている。分担などはなく、それぞれが時間のあるときに来校してもらっている。

校長室でお茶を飲みながら、リーダーの方を中心に打ち合わせをし、各学級に振り分けている。得意な学年があるのか、スムーズに分担され教室に移動する。終わったあと

は校長室にもどり、お茶を飲みながら反省会をする。

サポートしてくださる方々の意識は非常に高く、あらかじめ問題集を持ち帰って予習をしている方もいる。お茶代とお礼は、都留市教育委員会の「個性を育む学校づくり事業」のなかで予算化されており、物心両面で地域からサポートされている実感がある。

都留市内の学校は都留文科大学の授業の一環として行われている「SAT」事業がある。授業や放課後の活動等を先生方と経験しながら、教職への道筋をつくる。その学生達といっしょになって丸付けをすることもあり、本校生徒にとっては充実した時間となっている。

## ◎「20分間学習」と職員の関わり

「20分間学習」実施日は、授業が終わるとすぐに生徒と担任は教室に戻り、決められた問題集をはじめ。担任は地域の方々が来るので多少緊張して準備をさせる。毎回のお茶の準備は用務員さんが、片付けは事務職員の先生がしてくれている。実施日は学校行事との兼ね合いで設定し、月に3回から4回を目安に、1ヶ月前に予定表を作成し【資料】、サポートしてくれる方々に配布する。この作業は教務主任が担当している。最初の打ち合わせや反省会は校長または教頭が対応して、世間話から生徒の様子まで話を聞いている。



## ◎20分間学習の課題

この取組がはじまって10年以上が経っている。はじめた当時の学校の状況とは違ってきていて、生徒も真面目に取り組んでいる。丸付けをする方々が大変ではないか、効率が悪い、問題集の難易度を上げてはどうかなどの考えや、反面、基本問題を全員でする事や数分でも集中できる事は重要という考えもあり、学級担任の間では温度差があるのも事実である。

また、学校行事の関係で月3回から4回の時間が確保できない場合もあり、予定をつくる教務主任も苦慮している現状がある。現在の教頭や教務主任は、サポートしていただいている方々と人間関係もあり、今のところはスムーズな運営がされているが、いつまでも同じ分掌にはいられない。教員とサポートしていただいている方々との人間関係の継続が大きな課題となってくる。また、教員と同じようにいつまでも同じサポート体制はできない。

## ◎おわりに（成果）

サポートしていただいている方々は各地域でもさまざまな活動の中心となっている方ばかりなので、子ども達とは顔見知りの場合が多く、遠慮なく20分間学習が実施できることは、まさに地域教育の典型であると思う。また、学習そのものの成果を考えることも重要であるが、地域の人々とのこうした交流は生徒たちの宝になる。大人になったときに地域の大きな力にもなりうる。大切にしていかなければならない交流である。

校長の立場で成果を考えてみる。学習のあとの反省会では、学級の様子、担任の様子を聞くことができる。学習態度にも各学年の差が手に取るように把握していることも興味深い。全国の学校で叫ばれているコミュニティ・スクールの形ができあがっているとも思っている。サポートの方々は常に「学校、生徒のために」と言う意識で取り組んでいただいていることが一番の成果ではと考えている。生徒たちは幸せ者である。

## ◎活動記録（20分学習の様子）

